

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	ひとりひとりの思いと能力に合わせた支援を家族や地域との交流や家族との時間を大切にしたい理念を作り、実践に向けて取り組んでいる。	
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	日々の業務や必要に応じて、職員と話しあいを行かない、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	老人クラブや町内行事の参加、また町内との交流を目的にした法人全体での夏祭り、避難訓練など地域との関わりを重視した取り組みに、町内会の方々や家族にも参加の声をかけを行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	隣近所の方々とは気軽に挨拶を交わし、立ち寄って立ち話をすることもある。また役立ててほしいともらい物を頂くことも多い。その他厳しく評価して頂き、サービス向上や地域と交流を持つ上でもよい関係を築けてきていると感じている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	数名の老人クラブへの入会参加と町内会の行事等への参加を実施している。町内におけるグループホームの存在や中に住む人の状態像を理解して頂きいつも温かく接していただいている。	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	冬には周辺の除雪等を行っている。「他に何かできることはないか」と運営推進会議等で地域への貢献について話したことがある。例えば利用者の散歩を利用して、小学生の下校時の通学路の見守りなど。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や不満については概ね職員がじっくり聞いて、解消に向けた取組みを行っているが、場合によっては、本人の求めに応じて、以前の担当ケアマネジャーや市職員、病院の医師などに協力をお願いし、内容を把握し本人との関係づくりに役立てている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	「すまいる便り」を作成し、定期的に生活や健康情報をご家族に報告している。金銭管理については、できる限り毎月行っていきたいが、現在は個々に合わせた報告を行っている。職員の異動等については、運営推進会議の報告書に記載し報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時には、できる限り家族と話し、意見等を聞くように努め、意見等に対しては真摯に受けとめ、その都度改善等に努めている。また事業所内には外部相談窓口を掲示している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者及び管理者は、できる限り現状を把握するよう努めている。また職員とも気軽に話す関係を作り、意見や提案を自ら聞き運営に反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態や状況の変化に応じて、必要と感じるとすぐに職員間で話し合い、遅番や早番など導入するなど暫定的に勤務調整を行い、柔軟に対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特別な事情がない限り、ユニット間での異動等はおこなわない方針で行っている。但し同一建物の中ということで、できる限り全利用者のことを把握できるようユニット間の交流を行い、全職員が顔なじみの関係を作れるよう努め、特別な事情で異動を余儀なくされた場合でも、お互いに影響が少ない状況であるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時に、ご本人の状態と置かれている状況等を踏まえて、グループホームへの入所だけに固執せず、他のサービス利用の選択肢など、できる限りニーズに合ったサービスの情報を提供するように努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が見て自分の意志で選択して納得して入居していただくことが一番ですので、できる限りご本人が見学に来られ数時間なり過ごして、事業所の雰囲気・入居者及び職員との相性を見て頂き、本人が納得し「ここなら安心！」と思って入居できるように、入居相談に来られる家族やケアマネジャー等に説明し協力して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	冗談を言いながら、一緒に家事を行い、頼りにしながら、その能力を見極め、利用者が自分の役割として自らの意思で参加できるような働きがけを行っている。ひとりひとりが自然体で過ごし、自然に助け合っている姿を見る。下膳できない人の茶碗を自分のお盆に載せさせ下げる。イスから車いすに移るとき、車いすが動かないように押さえる。職員の手がふさがっているとき、サッと来てドアを開けてくれる。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来訪されたときは、家族も居心地のよい場所で、利用者と一緒に過ごしてもらっている。他の利用者に混ざりテレビを見たり、一緒におしゃべりしてりすることもあ。本人のその時々状態に対するホームでの関わり方、対応策など話し、理解してくれてる。そのため家族と一緒にいるときは、求められたときにのみ職員が対応している		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族のこれまでの関係や状況をきちんと把握し理解するよう努めている。家族に対しても関わりを無理強いくことなく、すまいる便りや必要に応じて生活の様子を報告し、状況変化が生じた場合にも、状態が理解できるように努めている。家族が気兼ねなく一緒に過ごす雰囲気を作る努力もしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	理美容室や病院など昔の馴染みの場所には、特別な事情がない限り継続して行っている。「昔からの知りあいだ」と笑顔でおしゃべりしたり、思い出せず、質問に困惑する場面もあるが、同行する職員としては過去の生活状況などの意外な情報収集ができたり、ホーム内での会話や行動理解のうえで役立っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	聞き違い、思い違いなどでけんかしたり、笑いながら一緒に家事をしたり、職員より早く他の利用者のイスを支えたり、見守ってくれたり、時には悪口や陰口をいうこともあるが、そんな利用者同士も時には一緒に作業したりと孤立することなく、お互いに関わりを持って生活している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、気軽に立ち寄って、おしゃべりして行く家族がいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を確認することが困難な場合でも、できる限りその人の気持ちを理解しようという思いに立ち、職員全員で検討している。1人ひとりの思いや希望、家族の思いや希望の把握に努めている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の情報として頂いたほか、本人や家族からの聞き取りなど綿密に行いこれまでの生活等の把握に努めている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	24時間体制で生活状況及び心身状態を観察し、介護記録に記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	必要に応じ、家族との話し合いを持ち、家族の意向や事業所の方針等確認している。また家族の来訪時には現状を説明し、意向等聴くように努め、一緒に考え介護計画に反映させている。計画作成時には、ケアマネジャーの指導を受けながら行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行っている。見直し期間前に状態が変化した場合は、必要に応じて家族や介護職員の意見を聞き、ケアマネジャーと共に新たな介護計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護記録には、利用者の生活の様子やケアの実施などこまめに記載している。後から読みなおし、状況の変化など情報を共有しながら日々のケアに活かし、また介護計画書作成にも役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所としてできる範囲の中で、家族の状況に配慮し、要望や必要に応じた対応を行っている。例えば病院受診、自宅への送迎など		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の要望で、地域の老人クラブに参加し、受け入れて頂いている。また近くの消防署の署員の方々にも、急な訪問に対してもやさしい対応で協力して頂いている。町内外のボランティアさんには演芸や夏祭りなどのお手伝いで支援を頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	言語療法嚙下相談や福祉用具の相談など、必要性に応じて、関係する機関や事業者等に相談している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在地域包括支援センターと協働で行なっていることはない。が運営推進会議のメンバーとして運営上、いろいろとお手伝い頂いている。必要があればいつでも相談し、協力し連携できる体制にある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を大切に、それぞれの主治医と気軽に相談できる関係づくりに努めている。できる限りホームでの生活を継続できるように本人や家族の希望を聞きながら、主治医と相談している。主治医はグループホームを理解しており、家族の希望や事業所の状況に配慮し、場合によっては早期退院に向けての入院治療などの協力もある。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関並びに専門医療機関に信頼し相談できる医師がいる。必要に応じ相談し治療を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師及び准看護師を看護職員として確保している。医療機関等に相談しながら、日常の健康管理を行い、定期受診以外の急病時の対応や深夜・夜間の状態変化への指示や対応など随時介護職員と連携している。また介護職員および家族、利用者としては、気軽に相談できる身近な存在。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関に入院となった時にはできるだけ多く面会に行くなど、利用者が安心して治療が受けられるとともにこれまでの関係が継続できるように努めている。そして病院関係者との情報交換や早期退院に向けた相談がスムーズに行くことと、ダメージを少なくホームに戻ることをできるように連携している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の重度化に伴う状態変化を必要に応じて家族に報告し、ホームの方針や家族の意向を確認しながら、主治医と話し合いを行っている。必要なときは家族と一緒に主治医の診断を踏まえ話し合いを持っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化に伴い状態が変化するなかで、ホームでの生活として「どこまでできるのか・するのか」をひとり一人の状態や家族の状況など、いろいろなケースで話し合っている。家族と事前に緊急時の医療機関の選択やどのような対応を希望するかなど方向性を話し合っている。必要性が出た際には、家族に報告しながら、受診や相談を繰り返しながら医療機関等と連携をとり、適切な支援ができるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>転居の希望により情報提供の要請がある場合は、できるかぎり密な情報を関係者等と交換しながら、新居にスムーズに移行できるように協力している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の取扱いはもとより、言葉をかけるときや排泄、入浴時にも羞恥心に配慮した対応を心がけている。不適切な対応がないか職員間でも互いに注意しあうように努めている</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>心に響く言葉で説明し、自己決定して頂けるよう心がけている。できる事を快く無理なく行い、張りがある生活を送っていただけるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>これまでの生活習慣を尊重しつつ、ホームでの生活のあり方をアセスメントしている。その日をどのように過ごしたいか、その時の様子から察し、意思確認しながら希望に沿った過ごし方ができるように支援している。見守りや声がけで、時間がかかっても、自分のペースでできること、したいことを行いそれぞれの満足する生活を送っていただけるように努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>以前からの行きつけの理美容院には、本人の希望に応じて随時行っている。外出等が困難な方々には、定期的にホーム内での訪問理美容や車両での移動理美容室で美容院等に行った雰囲気味わってもらえるようにいると工夫しながら、おしゃれの支援を行なっている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>それぞれの能力に応じた形で、職員と一緒に食事の準備や調理、片づけを行ってもらうよう工夫している。台所だけではなく、食卓テーブルで野菜の下ごしらえを行う。ホットプレートを利用した調理を行うなど、後片付けについては、下膳はほぼ全員が自ら行い、茶碗洗い等は、出来る方に継続して声がけてきたことで、役割となり場合をみながて自発的に参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の疾病や周囲との兼ね合いなどいろいろと配慮した中で、できる範囲希望に沿えるように心がけている。ただし煙草については、法人の方針で事業所内禁煙。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握した上で、失禁をしないように声かけ等を適時行い、できる限り適切にトイレで排泄できるように心がけている。紙パンツやパットなどの使用については、本人が希望し使用している場合を除き、家族の経済的な負担にも配慮し、最低限度の利用とするように努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日行っている。それぞれの希望にあわせて声かけし、一人ひとりのペースで気持ちよく入浴していただけるように支援している。希望がなく、夜間入浴を支援する体制はとっていない。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	習慣やその日の体調に応じて、適時休息をとって頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や能力に応じ、その日の気分や状況に合わせて個別に対応したり、全体で活動したり工夫した支援を行っている。買い物同行、ドライブ、散歩、創作活動などいろいろ		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談のうえ、ひとり一人にの状況や能力に応じた支援を行なっている。手元に置かず、希望するときに渡す。小額だけ本人管理とする。など		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	戸外への出入りは自由に行っている。ただし本人の状態や能力に合わせ、見守りや声かけ、同行などの形で、希望に沿った支援を行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望を聞きながら対応できる範囲で、ドライブなど外出の機会を作っている。また家族との外出や外泊も自由に行っていたりしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望や訴えに応じた支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限は特に設けていない。いつでも気軽に訪問し過ごしていただけるように心がけている。面会室はないので、居室で過ごすことが多いが、時には居間で他の利用者もいる中で一緒に過ごされることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の禁止について職員は理解しており、互いに意識し日々のケアに取り組んでいる。転倒の危険性を伴う方に対しては、安全に配慮した環境作りや見守りの強化を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関には鍵はかけていない。玄関に立つと人感センサーにてチャイムがなるようになっている。チャイムがなる都度、出入り等の確認を行い、安全な利用者の戸外への出入りを見守り等にて支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、全体に目配りしさりげなく、常に利用者の所在を確認するよう意識している。夜間・深夜には睡眠の妨げにならないよう配慮しながら巡回を行っている。またトイレ起床時及び室内での活動など安全に配慮しながら見守りを行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ひとり一人の状態に応じて、安全に配慮しつつ、落ち着く環境になるような居室作りを行っていただいている。低い家具を置く、固定をしっかりと行うなど工夫もしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	過去の経験や他事業所の事例、研修を通し日々の業務の中で話し合うことも多い。事故におけるリスクは十分に理解している。定期的な訓練やマニュアル作りに活かし、日々意識確認と見守りを強化した取り組みを行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	普通救命講習を職員に受けてもらっている。また緊急対応シートを個別に作成し、緊急時に慌てないように努めている。また個々の持病等に対して予想される急変時の応急手当や対応等を日常的に看護職員が他の介護職員に申し送りしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防計画を作成している。また災害時に協力していただけるように、町内会の行事等への参加を通しお願いしている。また避難訓練など行うときには、チラシを配布し近隣住人の方々に協力を呼びかけている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族等には、入居の契約前に必ず万全ではないこと、起こり得るリスクについての説明をしている。入居後にも機会がある度に、生活をしていくうえでのリスクや今後の対応策ど話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の観察力を養い、情報の共有を密に行っている。体調の変化や異変を感じると看護師等に報告し、速やかに必要な対応を行っている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護職員が他の職員に、薬についての用法や用量、副作用などを説明している。また薬や薬の情報もきちんと整理され、すぐに確認できるようになっている。職員も服薬の支援を行なう上で、自らも積極的に理解に努め、確認を徹底し行い、適切な対応ができるように努めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘による影響について理解しており、利用者の言動・行動・体調の変化に対し、「水分の量は？」「お便はいつでたか？」「量は？」などその原因を検討し、解決に向けた働きかけを行っている。こまめな水分摂取、体を動かす、食事等の改善、下剤の調整など		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	本人の習慣に配慮しながら、毎食ではないが食後に歯磨き又ははうがいを声かけ等で、毎食～1日1回で全員に対し支援を行っている。また必要に応じてかかりつけの歯科に行ったり、訪問歯科を利用し口腔衛生に努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ひとり一人の状態に合わせて、必要な水分及び食事の量を調整確保している。糖尿病の方、塩分制限のある方については栄養指導を受け、指導をうけたことを守りながら食事制限をできるだけストレスを感じさせない配慮しつつ、体重を増やしたい方とのバランスをとりながら夫々個別に対応している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員は感染の速さ、怖さ等十分に理解して、取り決められた予防対策を徹底して行っている。必要時に使いやすい場所に、マスク・ポリ手袋・塩素消毒・アルコール消毒・予防衣などの備品が設置されている。玄関の外と館内の目立つ場所にポスターを張り、声かけを徹底し、職員や利用者のほか、出入りする全ての人に手洗いうがいを励行している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	職員全員が食中毒のリスクを十分理解し、調理器具の衛生管理はもとより、新鮮な食材の使用と管理を行っている。野菜保存庫、冷蔵・冷凍庫内の定期的な清掃消毒と食品の賞味期限等の点検、また1週間分の検食(毎食)を冷凍保存している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		<p>建物の周囲は、春から秋はガーデニング、冬はイルミネーションで皆様の目を楽しませている。ホームの前はベンチやパラソルを置き、庭を眺めながら休めるよう工夫し、冬はロードヒーティングで滑らないよう配慮している。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		<p>居間など皆が集まり過ごす場所では、適時遮光カーテンやブラインド、照明等により明るさを調整している。またその時々のお雰囲気や音楽をかけたり、テレビのボリュームを調整したりしながら、居心地良く過ごせるように工夫している。また壁絵などを作り、季節感を感じてもらえるよう努めている。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		<p>それぞれの気の合う人と気軽に一緒に過ごしている。ソファや食卓でおしゃべりしたり、居室にいることもある。それから「2階へ行ってくるね」と・・・見守りの中で自由に過ごしている。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		<p>使い慣れたものや好みものを居室に置き、自分の居場所として居心地よく過ごせる環境作りを本人の状態と安全に配慮しながら、本人や家族と相談して行っている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		<p>嫌なにおいや空気のおよみがないように、換気や空気清浄機の設置などで空気の流れを作るよう配慮している。また室内は適温を保ちながら、状況に応じて着る物調整や暖房の温度調節などで利用者の体感温度に対応している。そのほか濡れタオルや加湿器の設置により、湿度を50%以上に保つようにこころがけ、感染防止に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 理念として「自由」「安全」「穏やかに」を実践しています。私たちのできる限りの心のこもったお手伝いや気配りで信頼関係を築き、「すまいる」での生活をよりよいものにしていただきたいという思いで日々取り組んでいます。